

梅毒 淋病
皮膚病專門婦人病
松村病院
電話一七〇
南平町

鶴龜の意匠凝した
おしい
御土産折共
五品.....
御銚子壹本付



大和家
デンプ じょうばんばん
割烹 大浦焼

肉聲其まゝの高級
ビクターレコード枚1.50錢
日本物と音楽
蓄音器針は
ビクター針先 35錢
一度御試聴下さい



蓄音器・貴金屬
會田時計店
平町四(電三六三)

東京 毎日新聞
定一部金貳錢 廣五號十二
價一ヶ月廿錢 告五字一行
郵稅五厘 料五十錢 日刊
日祝日ノ祭 休日
日祝日ノ祭 休日
福島縣石城郡平町長橋前三五
發行所 常磐毎日新聞社
電話六三〇番

本社 同番地(電話六三〇番)
印刷所 常磐毎日新聞社

新築移轉 耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平町南町(舊診療所向)電話一七〇番

大和田醫院

いしいた 衛生的な生
ンバ 的な多養滋
ンバ き多養滋
ンバ き多養滋

食パン一斤十六錢
レモン汁
バナナ
ミヤマクワ
ジャム
本玉
松本
ウヅマキ

五錢

目丁四町平
ヤトモツマ
番四一二話電

御大典記念引伸寫眞
特別大割引

絕對他の追隨を許さぬ技術と機械を以て
屹度皆様の御満足を得らるゝやう奉仕的
に勉めまします。
此好機を逸せず直に御申込下さい
三丁目川岸通

齋藤寫眞館

松島名産 カキ貝御料理

十一月一日
カキフライ
カキなべ
貝々

洋式宴会
仕出し

平田(電話一六七番)
の井

筑前琵琶教授 有山旭千師直門 吉田旭良
古流盛花折入教授 松原齊 吉田理秀

毎週日曜(平町大町若松醫院向いつみや方)

伊勢參宮 遊覽團體募集
京都紫宸殿拜觀
良巡拜

會期 明春二月二十日
會費 二十九圓五十錢
但し(申込と同時に金五圓納入し
残額は二月迄五回に分納の事)

人員 二百名の豫定
申込 事務所 尼子亭
——通信班及び救護班を設く——
即刻申込まれよ!!
募集期間中と雖も満員の際は締切候
……(詳細は事務所問合され度)……

主催者 尼子亭 吉田直之助
會計監督 山崎清三
會計 志賀盛榮
贊助員 小澤長 豊崎治
後援 磐城新聞社
常磐毎日新聞社
事務所 尼子亭
松ヶ岡公園内(電話二三〇番)

御大典記念に
珍菓子新製品發賣

尼子殿中(箱入各種)
菊の友(箱入各種)
◎マコロンケーキ(斤賣)

御求めの折は市内の約束店より御買上を
願ひます

電話にて申込次第見本進呈
平町小太郎町廿一

榮屋製菓店
電話三六〇番

原齒科醫院
平町土橋通り電話三一三番

村落生活の
變化と改造

村夫子

其他遊戯娛樂を始の村民全
體を目的とせる施訴を爲し
茲に團體として生活する價
値を造り各人を獎勵して人
生を樂む思想を普及せしむ
る斯かる事業の先驅者とし
て一村必ず其人ならねば
ならぬ村落の社會的變化は
今後益々甚だしきに至るが
同時に新生活を創作し之を
改造する努力を怠るべきで
ない、而かも之を爲すは人
にある何事も金の世の中な

寒サ愈々迫ル
マズ防寒具の準備が
第一です

子供用 シャーサー
婦人用 ショール
婦人用 シヤツ
毛アンダー
コットン シャツ
壹圓均一の特賣
ワイシャツの
買切れぬ中に
ニツルヤ
平町四(電話百四十番)

此際預金は 断じて手離すな

此上損失を掛けたくない
新田目平銀重役語る

二三日来平銀行の支拂停止を奇貨とし此の際私利を貪らんとする者が現れ種々の甘言を弄して説き廻つて居るらしいので平警察署は夫等の者が預金者に不安を感ぜしむるが如き言を流布しつづ歩くらしむる目星しを付け忍かに内偵中であるが右に關し同銀行の新田目重役は語る

「當行の支拂停止は有力銀行との合併準備の爲めからでありますから金庫に金が無くなつたとは違ひどんな事があつても預金者に迷惑を掛ける様な事は絶対にないのです。言を代へれば預金者に迷惑を掛け度くなければこそ一時支拂停止を行ふの止むを得ざるに至つたのです。然るに今着々と整理が進み目鼻がつかまつて居る際に當り折角の預金を幾らでも損じて手離さうとする事に甚だ預金者の不利益でありまして銀行は債權債務が相殺され何等の痛痒を感ぜぬと云ひながら、ダマツて見て居る譯には行きませぬ、未だ銀行には相殺を申出た向は一件もありませんが預金者に損を掛けます事は甚だお氣の毒に耐えませんが預金者は左様な交渉に應せぬ様願ひ度いと共に當行は極力解決を急いで年内には必ず吉報を齎らす事に努めます」

火事の季節が来た 火の元用心御用心

多くは風呂や竈の不始末 未然に防ぎませう

愈よ空つ風がのさばり最も危険な火事季節となつたので縣下各市町村消防組では俄に戸別火防點検を行ふやらの用心宣傳のポスターやビラの配布を行ひ始めた吹きまくる夜風にふるへて廻る夜番人の叩く柏子木の音も物淋しく響く様になつた、今平警察署の調査した所によれば大正九年以來本年十月末日までの出火原因は約三分の二が風呂やかま

ごの火の不始末で提灯の置き忘れ子供の弄火等も相當に多い一度チャンと鳴つた

年賀郵便御注意

今年は廿日から年賀郵便の取扱は昨年までは十二月十五日から二十九日まででしたが今年からは五日間短縮し二十日から二十九日まで改正され取扱郵便の種類も第一二種及び第四種は名刺に限る事になりました



家庭知識

この御家庭でもみかんの皮が澤山たまるとは、居てよく乾かし、その儘いぶきますと便所の臭氣どめになります、又夏ですと蚊いぶじにも用ひられ冬季には薬湯代用に使えます。柿の温まりまして妙です。柿のへたを四つ五つ鍋に入れ一

天狗連悲觀

不獵續きに

狩獵期に入つてからの石城地方殊に三坂、澤渡山間部は獵天狗連で賑つて居るが

捕鯨會社

小名濱から引揚ぐ

昨年末石城郡小名濱町に捕鯨事業所を設置した東洋捕鯨會社では明春三月限り同地の事業を中止することゝなつた原因は小名濱沖合は捕鯨に全く適せず開業以來五萬圓の利益を見たに過ぎぬためといふのである小名濱町では同會社の事業閉鎖による打撃甚大なので鈴木小名濱町長ならびに小野町議は二十二日東京本社を訪問事業繼續方を懇願する所あつたが近く町民大會を開き決議をなして本社に事業繼續方を懇請するはず

叔父を訴る

財産横領で

石城郡植田町高倉鈴木八千代(三)は平町安齋辯護士を代理人として平檢事局に同町に居住する叔父の鈴木鼎を相手取り横領の告訴を提起したが其理由は八千代が實父長造死亡後祖父に當る清藏に養育され十五歳の折に北海道に出かせぎに行き本年夏ころ帰宅してみると父からゆづられた五丁歩餘の田畑が叔父の名義に變更されてゐるのを發見し横

領の訴へをなしたものである

只飲み常習

高久の菅波大工

石城郡高久村大字神谷作大工職前科一犯菅波正恒(三)は二十二日夜平町南町飲食店佐藤屋に登樓し遊興費四圓二十錢を踏倒して逃走したが二十三日平署に取押へられ目下取調中である同人は前記犯行の外同町飲食店つる屋花月あづまその他にて前後十數回に亘り同様無銭遊興をなした常習者である

詩南社懇親會

平町五丁目詩南社發行の文藝雜誌「詩南車」は御大典記念の特輯として片寄、佐藤、宮田其他の同人諸君の外高久、酒井、坂田其他平町の長老達も顔を寄せあらゆる文藝家を網羅し新装を凝らして現れたが今廿四日午後六時半からは日本キリスト教會で誌友大懇親會を開き八島冬全氏の送別を兼ねる由に一併費廿錢

農具實演の 感謝狀贈呈

加勢知事から

縣主催動力農具實演會に對し加勢本縣知事から出品者平町白銀町藤浪時康氏外百名に廿六日付を以て感謝狀を贈ると

遭遇戦壯烈

警中野外演習

警城中學校四五年生の野外發火演習は廿三日南北二軍に分れ北軍は植田町に午前九時三十六分南軍は勿來町に午前九時四十四分何れも下車兩軍共歩兵第二十九聯

電燈値下の 同盟員惡事

平署に檢舉

自稱日本電業同盟會理事茨城縣生れ當時住所不定小林忠平事小林正一(三)は九月中電燈料値下同盟會の名を以て小名濱町植田町方面に於て演說會を催し續いで平町に於ても同様演說會を開催したが入場者が少かつたので其宿泊料にも窮し平町福住館の宿料十數圓を踏倒し逃走行術をくらましてゐたが此程又また平町に舞戻り警城水産新報社員と稱し郡内の各商店から廣告料を

門を叩く

職業紹介所は 斡旋準備成る

農家一箇年の行事中、いよ最後の收穫期も終つて年末を控石城郡方面農家は、新米を賣出し始め、既報の如く何れも收穫減を見て例年程の元氣を見ることが出来ない、これが爲平職業紹介所ではこの收穫期の終了と同時に家庭間の

募集

文藝其他投稿を募集します

生活し出稼ぎをするものが増加し従つて紹介所の門を叩く者が例年に比し二三割位の増加をすもものと見てこれ等のため充分な職業の

△四丁目四〇 猪狩常河氏長女恭子
△田町四九 小野寺秀吉氏六里勘
△研町一六 鈴木照氏三男英典
△死亡
△道原小路三二 木村要(二七)